

ミクロ経済学A 復習用

6～9回

2018年、5月15、22、29日

6月5日

価格弾力性

需要の価格弾力性

- 100円の財の需要が100である。
- 価格が101円となる(=1%価格上昇)とき、需要が99となる(=需要の1%減少)。
- このとき、需要の価格弾力性は1である。
- 需要が98となった場合は、需要の価格弾力性は2。この数字が1を超えて大きいほど、必需度が小さい(不要不急)。
- 需要が99.5とバツタ場合は、需要の価格弾力性は0.5。この数字が1より小さく、より小さいほど、必需度が大きい(価格が上がっても、消費を減らせない)

需要の価格弾力性と売上の関係

- 1%価格上昇)とき、需要が1%減少。売り上げは、ほぼ変わらない。つまり、需要の価格弾力性が1であれば、価格が変化しても、売上は変わらない。
- 需要の価格弾力性が1より大きければ、売り上げはどのように変化するか？

供給の価格弾力性

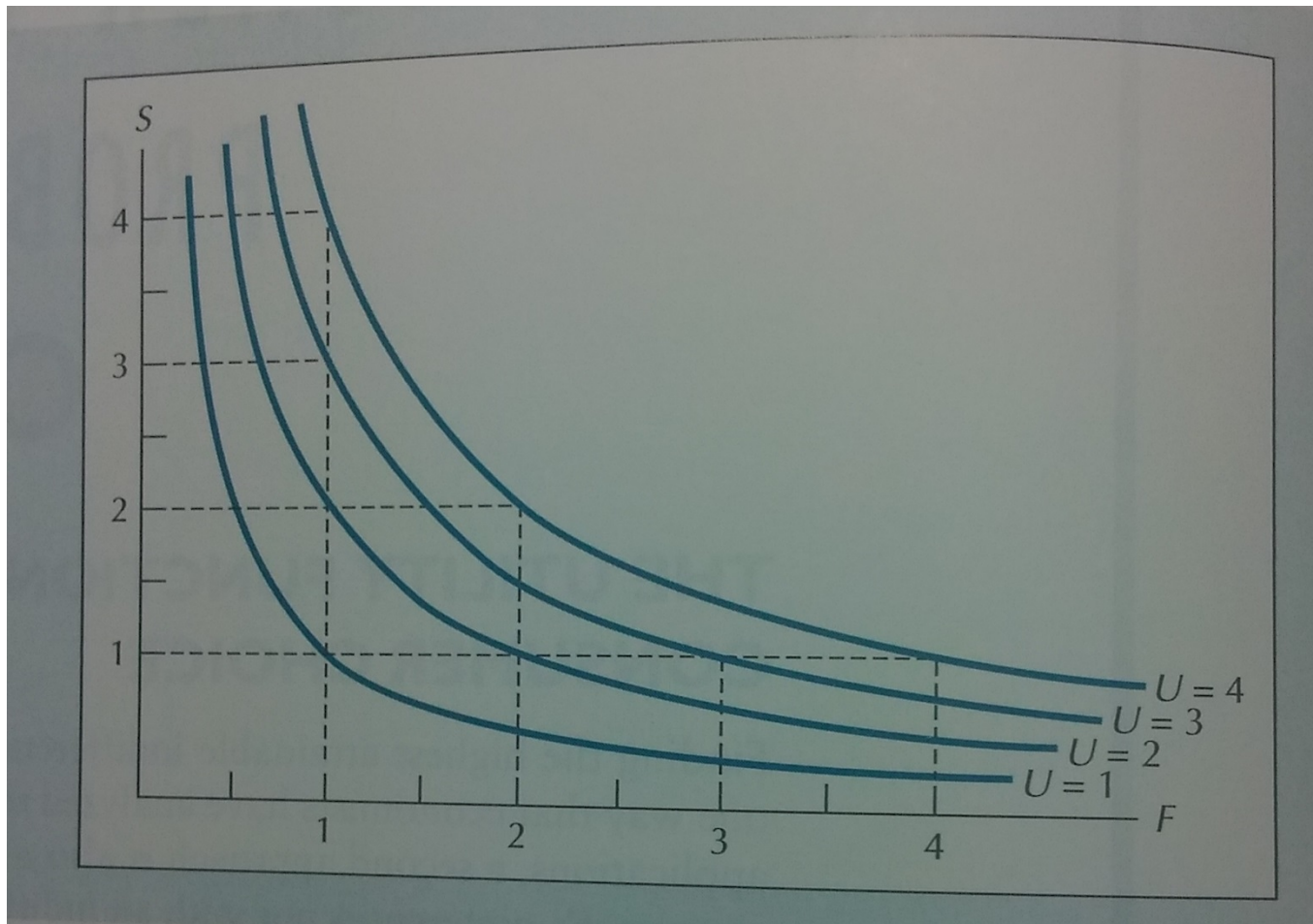
- 需要の場合と同じ。ただし、価格が上昇すれば、供給は増える。
- 供給の価格弾力性が大きいのは、産業が同じ供給力であった時には、労働力・資本の余力が大きいとき（無理が効く＝多く働かせてもあまり賃金が上がらない、余剰労働力がある、設備余力がある）。
- 調整時間を長く取れば、設備の増強ができるので、供給の価格弾力性が上がる。さらに長く取れば、他産業の企業が参入してくるので、供給の価格弾力性はさらに上がる。

無差別曲線

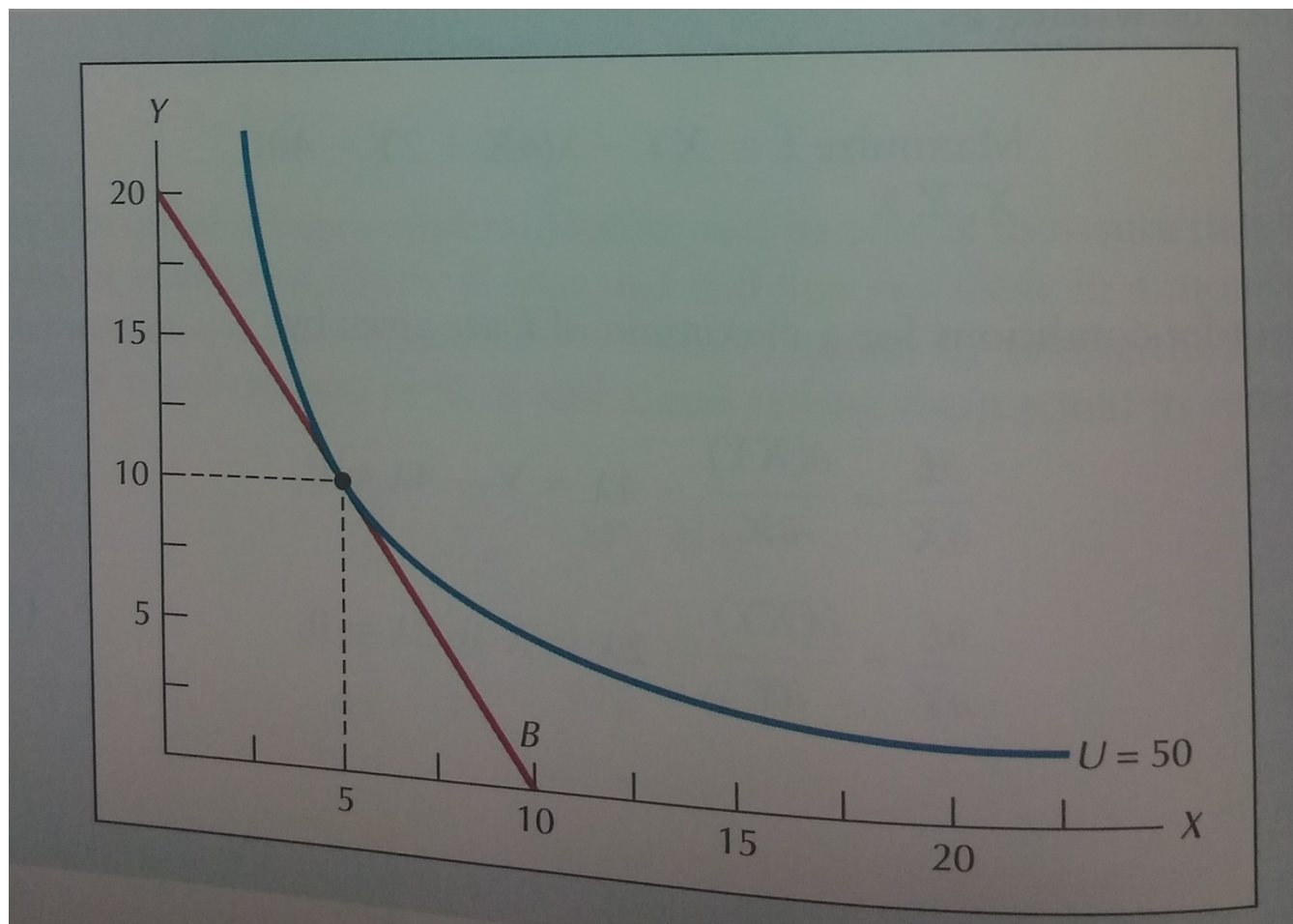
無差別曲線の性質

- 2つの財の消費の組み合わせのうち、効用が同じ水準のものをつなぎ合わせた「等高線」
- 財の消費量が増えるほど、効用水準は上がる。
- 無差別曲線は、
 - 常に右下がりである。
 - 交わらない
 - 原点に対して凸である。

このようにかいてください



消費の最適点: $x=5$ 、 $y=10$ が効用最大となる。



所得効果

- 所得が増えると、需要の量も増えるのが普通（下級財でない限り）
- 教科書99ページ参照
- 需要曲線が、所得が増えると右方向にシフトするのは、このためである。

6月12日（来週）は休講する

- その間に、教科書100ページまで、復習しておいてください。
- 小テストを6月19日に行います。
- 前回と同じようなレベルの問題です（あまり難しくないが、勉強しないと答えられない）。